

#### 4. 意見交換

知事： いろんな活動をやっておられるということが、非常によく分かりまして、大変ためになりました。

まず一番最初にYASU海援隊の、塾生の体験メニューは、本当に本格的ですね。これだけのことをやられているのであれば、おそらくここだけじゃなくて、あちこちでやりたいという人は出てくるんじゃないかなと期待感がすごくあります。これを例えば月に1回、とか、月に2回だとかいうかたちで、より本格的に旅行商品として定時定量で受け入れていくかたちでやっていくための課題や必要なものがあれば、是非教えていただきたい。

Aさん： そうですね、(旅行者に観光案内や宿泊・食事の手配などをしたり、地域にある体験メニューなどの観光資源を商品として企画し旅行業者などに売り込んでいく、体験型観光の仕掛けを行う)ランドオペレーターがいないことですね。いいものを持っていても、商品にならないというところが今ちょっとネックになっていると思うんです。幡多のほうには、そういう専門の方がいらっしゃるそうなので。

知事： 幡多は、幡多の市町村全部で広域観光圏協議会というのを設立したんです。協議会を設立した上で、きちっとした事務局を作ったんです。スタッフは事務局長と、滞在型、体験型観光をやってこられた方1人、それと元々おられた方、それから県のスタッフも一緒になってやっております。実は、今度中芸のほうも、広域で一緒にやっっていこうじゃないかと呼び掛けていて、そこで1人、ランドオペレーターとして対外的に売り込みをしたり、外からの質問に答えるスタッフを用意しています。

いろんなやり方があると思っていまして、この広域観光圏協議会を作ったほうがいいパターンもあります。しかし、そうでなくてもここは観光資源の宝庫ですので、さっきのを見ていると2泊ぐらいは軽くいろんな体験を組み合わせでプランが出来るのではないかと思います。

Aさん： できたら行政のほうで、物部川流域ですね、南国、香美、香南でそういう組合を作っていただいたら。今、広域観光を進めていますけれど、やはり3市だけではないかん、高知市も入れないかんということで進めています。

知事： なるほど。3市プラス高知市で広域観光圏協議会みたいなかたちにしていってらどうかというお話なんですね。だんだんONE BY ONE (ひとつずつ) で連携を強めていくというのもあるでしょうし、一挙に、まずその地域で海援隊をやっておられることをドンと打ち出していくようなかたちで、担当が1人か2人いれば全然違ってきますものね。

中芸にしても幡多にしても、観光に通じている方、観光協会に人脈がある方に来ていただいて、次につなげていくようなかたちになっていますので、そういうかたちでご紹介させていただくとか、いろいろな方法を市長とも相談しながら考えたいと思います。

#### 【海の駅クラブの活動について】

そして、海の駅クラブのお話を聞きながら思ったのですが、目指しておられるところが深いですね。障害者や子どもたちを視野に入れた取り組みは素晴らしいと思います。

参加される人数、受け入れの数を増やすことは可能でしょうか。

**Hさん：** 可能だと思います。ただ私たちが目指しているのは、一般の観光というよりも体験型観光です。教育的な体験型観光が、我々の得意分野だと考えています。

**知事：** なるほど。

土佐清水市の窪津漁港でも、東京の私立小学校のお子さんたちの受け入れをされて、一緒に地曳網をやったりしていますね。

しかし、こちら（香南市）には、すごい地の利があると思います。空港から近く、ほかの体験をしたいと思ったときに、いろんな施設が近隣にたくさんありますから。幡多のほうでは、体験型観光はあるけれど、その次の施設が遠い。車での移動が大変です。だから、その点はこちらのほうが地の利があって、PRの仕方によっては、いろんな人が来るようになるのではないのでしょうか。だけど、来てくれる人が誰でもいいというわけではないんですね。教育的な、体験型観光とか滞在型が望ましいので、それを求める人に来てほしい。そういうことですね。

**Hさん：** そうです。一般的なマリンスポーツの体験をしようとすれば、多分、高知県ではなく沖縄へ行くとお思います。バナナボートがあり、いろいろなレジャー施設があって楽しいので、それが普通だろうとお思います。なので、沖縄、レジャー観光地とはまた違う特色を持つために、教育型というかたちで特化したほうがいいんじゃないかとおは考えています。

**知事：** 確かに、本当に海で遊んで楽しむだけなら、沖縄に行って、バナナボートやシーカヤックで遊び、夜はリゾートホテルに泊ればいいじゃないかというふうになりますね。だけど、高知県はそうではなく、地元の方と触れ合い、獲れたての魚はこんなにおいしいのかと感動するといった体験が大事なんでしょう。それなら、どこにも高知県は負けないとお思います。

滞在型、体験型観光に、教育を組み合わせしていく。障害者や子どもでなくても、大人でも、例えば単なる社員旅行ではない、一段上の社員旅行を目指す場合もあるかもしれません。マリンスポーツと一口に行っても、他とは違うマリンスポーツ。本当の意味の福利厚生ということでしょうか。

#### 【ヤ・シィもてなし隊の活動について】

そして、ヤ・シィもてなし隊の皆さん方も、まさにその取り組みを担ってこられてきたわけですが、子どもは皆さんの料理にとっても喜ぶでしょう。

東京の子どもには、刺身とはもともとあの切り身の状態の刺身があり、それをパックに詰めて売っていると思っていたり、あれが海で泳いでいる魚と一致しない子というのが大勢います。ですので、教育の面というのは重要だと思います。

ただ先ほど、いつも受け入れているわけではないので、そういう体制にしようとするのが大変だとおっしゃられました。それから、材料の調達とかそこはどのような感じで、ご苦労がありますか。

Dさん： もうちょっと人を入れて、忙しい時には交替できたり、休みが取れるようなシフトを組むことができるようになれば良いと思います。

材料は、その日になって食材がなく困るというのは、絶対できません。しかし、大量にどこかから仕入れてくることも、2ヶ月も3ヶ月も受け入れがないとなると、処分しなくてはならなくなり、割高になるので、そこが問題だと思います。

#### 【教育型体験観光について】

知事： 塾の子どもたちを受け入れた際の、一連の行程は夜須から赤岡、赤岡から龍馬歴史館と、バトンリレーみたいに受け継いでいかれるようなかたちになっておられますが、その間ずっとツアーコンダクターさんか誰かが付いているんですか？

Aさん： 県のコンベンション協会の方が1人付いていますが、私や他のメンバーが今回は同行しました。

知事： 地元の方が初めから終りまで全部付いて回ることにすると、それは重労働、大変なことですからね。時間的にも制約が出来て、落ち着いて他のことができないでしょう。だから、必ず、そういうオペレーターが必要になるわけですね。

しかし、コンベンション協会が付いていることで、(協会が対応できる)量的限界が出てきてしまうみたいなことになっていけません。理想は、例えば旅行会社などが、地域それぞれのコンセプトに沿うようにツアーを作ってくれて、それで自分たちのツアーコンダクターも付いて行くようになることだと思います。

単なるマリンスポーツという、マリンスポーツ体験みたいなかたちにくくられてしまうと、他のところに負けてしまうので、こういう教育型体験観光というカテゴリーがあることを、深く認識してもらえるような売り込み方が、非常に重要だと考えさせられました。

#### 【月見山こどもの森の活動について】

ツリーハウスをはじめ、子どもが山でアドベンチャー体験ができるのは、今、県内では月見山だけなんですか。高知県は森（林）の国なのに、それは非常に意外でした。

そして、非常に興味深かったんですが、放課後子ども教室で出前教室を行っておられるとおっしゃっていたでしょう。今、放課後に子どもをしっかりと見てくれる方と、それから子どもたちと一緒に勉強が終わったら遊べる居場所作りということができるだけ進めたいと思っています。子ども教室か放課後児童クラブ、これをさらに学びの場へバージョンアップさせて全県内の小学校で作ろうとして進めているところです。

特に小学生とかは、勉強だけではなく、総合的な人格が成が必要ですから、そういう取り組みをは非常に大事だと思います。出前教室でやっていることなど、どのようなことをされているのか教えていただけるといいでしょうか。

Fさん： 森の話や生物の話、全体的な自然の話をして、その後にクラフトを教えます。子どもたちが一番面白いのは、松ぼっくりの実を使っておもちゃを作って、それをゴムで飛ばす遊びです。50メートルぐらい上ってヒラヒラ飛んでいくのですが、子どもたちはとても喜ぶます。その遊びの中で、松の実はこんなかたちをしていて、発芽をしてまた木になる。その木から酸素をもらって我々は生きている。なおかつ、我々が出す二酸化炭素まで、木は吸ってくれるんだと。木がなかったら人間や動物は生きていけないんだと、教えます。

自然を使って、子どもたちに学んでもらう事が大切だと思います。

知事： 光合成のことなど、そういう風に教えられるといいでしょうね。あとで子どもたちが学校で光合成を学んだときに、学ぶ意欲がわき、なぜこういうことを勉強するのかと、学ぶ意味がわかってくるのではないのでしょうか。

#### 【絵金蔵の活動について】

知事： この間、私は東京でデザイナーの山本寛齋さんとお話をさせていただきました。彼は、盛んに、高知では絵金が突きぬけて力を持っていると言っていました。絵金をアメリカに持って行ったら、アメリカ人は皆、絵金に心を奪われるだろうというのが、山本寛齋さんの持論です。

前から聞いてみたかったのですが、絵金のアピール力、PR力についてどう思われ

ます？

Bさん： いろんな方から、山本寛齋さんと同じような意見をいただいています。フランスに持っていっても、絶対受けるであろうか。

それ以外に、絵金についての自分たちの活動について報告させたらと、絵金が描いたもの、弟子が描いたものを含め300以上、県下に散らばっている屏風絵を、絵金蔵としては少しでもきちとしたかたちで調査して、データ収集をする必要があると思っています。

赤岡には、絵金の屏風絵を通りに出すという古い町の文化なんかも残っているので、これは他の町にはないものなので、アピールができるものかなと思っています。

高知県の絵金が、日本の絵金というものになっていけば、自分たちはすごくいいと思っています。

知事： そうですね。私も非常に感心させていただいているのが、赤岡の町の商店街、特に「冬の夏祭り」の活動にしても何でも、地域がよく商店街というものでまとまって、いろんなイベントを企画、実施されている。そういうことが商店街としてできていく秘訣というか、そういうものって何かありますか。(他の地域の)多くの方が、もうちょっとどうしようもない、希望が持てないとかそういうことを言われている中で。

Bさん： 平成5年に土佐絵金歌舞伎伝承会という、絵金の屏風を元にした歌舞伎をやろうというグループが発足し、それから大体約10年ほど、住民含め、役場、町長、それから商工会とか議員さんとかいろんなかたちのグループの中で、町について徹底的に話し合った時期がありました。その中で、やっぱり絵金という部分を大事にしていかなければいけないと、それを核とした町を作っていこうということになり、絵金蔵や弁天座ができたという経緯があります。今後は、それを、自分たちがどう使っていくか。赤岡にも空き店舗が増え、商売をしている人がだんだん高齢化してきているので、もう1つ2つ工夫が必要という気がします。

#### 【手結漁協・ヤシィパークの活動について】

知事： 漁協がシイラの水産物の加工、水産業の振興、特に観光や教育に生かそうと取り組まれていることは、素晴らしいと思います。

シイラは(午後)3時に揚がって夜食べるっていうんですね。まさに、ものすごく足が速い(鮮度が落ちやすい)からこそ、いわゆる地元へ来てしか食べられない素晴らしい宝なんでしょうね。

高知にはカツオだけではなく、シイラもある。県外の方にも、そういう広がりを知ってもらいたいと思います。坂本龍馬、カツオだけではない、高知の底の深さ。この

「龍馬伝」をチャンスにして、地元の人しか知らないものをうまくPRして、観光客の心をとらえられるようにしていきたいと思います。

ヤ・シィパークは、海水浴シーズンでない時でも、しっかりとその地を拠点にPRしているのがすごいですね。1つの海を生かすという点においては、高知県のいろんなところで有りなのかなと思います。今後の課題などはありますか？

Gさん： ヤ・シィパークは、県外の方には人気があるのですが、県内の方が意外にご存知ありません。海があるのは当たり前だという感覚で、素晴らしさをわかっていただけていない。もっと県内の人に来ていただきたいと思っています。